

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

項目コード	830102
検査項目名	HBVジェノタイプ判定
検体量	血液 2.0ml
保存方法	室温
検査方法	EIA法
基準値	設定せず
所要日数	4～10日
検査実施料	340点* ([D013]肝炎ウイルス関連検査)
検査判断料	144点(免疫学的検査)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・HBs抗原量が少なく型判定が不可能な場合、判定保留とご報告致します。 ・抗原量が十分に存在する場合でも、重複感染や抗体の非特異反応の問題により、判定保留となる場合があります。 ・HBVジェノタイプがA～D以外の場合、判定結果はC,Dもしくは判定保留と判定されます。 <p>*:保険適用条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. HBVジェノタイプ判定は、「11」のHCV特異抗体価に準じて算定する。 イ. EIA法により、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

受託開始日

2011年9月1日(木)

HBVジェノタイプ判定

B型肝炎ウイルス(HBV)は、塩基配列の違いによりA～Hの8種類の遺伝子型に分類されます。地球上のエリアにより型の頻度は大きく異なり、日本ではA,B,C,Dの4種類の遺伝子型が認められ、その内の多くをC型が占めます。逆に他の4種類(E,F,G,H)はきわめてまれにしか検出されません。

HBVの治療に関しては、インターフェロン(IFN)が利用されていますが、加齢に伴う免疫力の低下により、IFNの効きが悪くなることが知られています。しかしながら遺伝子型A型もしくはB型に対しては35歳以上でも高いIFN治療効果が維持されることから、これらの遺伝子型のウイルス感染患者にはIFN投与を第一に選択することが望ましいと治療ガイドラインに記載されました。

本検査は、PCRなどの核酸増幅は行わず、サンドイッチ酵素免疫測定法(EIA)を用いて、HBs抗原のPreS2領域に存在する4つの異なる抗原決定基(エピトープ)を検出し、その組み合わせから、遺伝子型A,B,C,Dを判定します。

本検査のようなHBV遺伝子型の判定は、B型肝炎の治療法選択の有用な情報となります。

■ 参考文献

田中靖人, 他:臨床病理, 57, 42～47, 2009